

隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第33回

森の彫刻家 上床利秋

バイオトイレをつくる 2

前回のおはなし

杉アトリエの手作りトイレが老朽化してきたのでウオッシュレットを装備した水洗トイレを計画したのだが、水道のきていない場所に建設するのは現段階では無理がある。そこで、屋久島や中国の自然遺産に設置されているバイオトイレを作ることにした。これは、排便を水で流すのではなく、おがくずを入れてバクテリアを利用して土に分解することで匂いをなくし、自然に帰す方法である。

今回のバイオトイレ建設を自分で行うにあたって私は、先月号で述べたいわゆる便槽部分と、屋根、壁の3箇所の組み合わせを杉アトリエに相談したいものとして考えてみた。

屋根においてはデザイン的に風通しの良い、市販のパイプ車庫を用いた。値段は5万円。テントそのものの耐久性は5年ということだったので、国分テント店に頼んでもっと丈夫な素材を重ねてもらうことにした。基礎と

してはブロックを敷き、コンクリートで段差を調整した上に鉄パイプをセッティングしたのだが、心配だったので周辺の木々に縛りつけた。

目隠しの壁は、ホームセンターで只で持つて行っていいとされている木製パレット6枚程度を利用してみた。高さを調節し、廃材の柱で補強を加え、と結構頑丈なものが出来上がる。内装にはカラーコンパネ3枚を張り付けると素人作でも立派に見えて品良くなった。

目隠しの壁とテントの支柱の間は大雨で便槽に雨水が流れ込む危険性があったので隙間にもブロックを敷いた。それでも心配だったのでコンクリートで傾斜を作り水の侵入を防ぐ。それでも台風が気になったので土嚢袋に砂利を入れて隙間を埋めてみた。見た目には不格好に見えるがこれが手取り早くて力強い。

外側の壁は、木製パレットの耐久性を考慮してタキロンで被って並べてみた。入口ドアは廃材の土間用アルミ製



外観。入口は三段の石製階段にした。テントと便器以外はありあわせの材料でまかなった。

を利用。底はテント屋根だけでは、雨水の跳ね返りを防げなかつたので別のテントを利用した。

バイオトイレとして匂いがこもつたら今回の狙いは外れたことになる。そのためにおがくずやもみ殻は不可欠なのだが、数年前から農業を始めた友人から有力な助っ人の情報を聞いた。匂いを分解する酵素をトイレに入れるというのである。すでに牛小屋で使用されているらしい。

その酵素とはEM菌。それを分けてもらい定期的に利用することにした。なんだかんだと言いつつも結局は自分で造ってしまった。不安な点が無いこともないが、以前のトイレより



テントを設置。四方の木に縛りつけて防風対策



木製パレットで壁をつくる。匂いがこもらないように、でも外から見えないように配慮。



中古のアルミ製ドアを取り付ける。

はお客様にも喜んで使ってもらえよう。パイプ車庫の広さの豪華なバイオトイレは杉アトリエだからこそ良く似合う。読者の方も一度来てみませんか？

日展会員 第一幼児教育短期大学 教授

この森のアトリエで彫刻を共に作ってみませんか

ホームページ刷新しました。

<https://douzou.jp/>

上床利秋

検索

このページのバックナンバーも読むことができます。

レモン画材絵画教室 ご案内

- 隔週水曜日 10:00～ 油絵・水彩教室
- 隔週土曜日 16:00～ 油絵・水彩 教室
- 隔週日曜日 16:00～ デッサン
- 隔週土曜日 ①10:00～ 子供絵画教室
②13:30～
- 月1回 第2木曜 10:00～ 和紙ちぎり絵教室

★ingミニセミナー〈POP文字・筆文字・絵手紙など〉チラシ等で随時ご案内致します。

お申し込みは TEL 0995-45-1015 国分進行堂・レモン画材まで